

AADRに参加して

生体歯科補綴学分野 大学院3年 井田 貴子

2014年3月19日から3月22日までの4日間、アメリカのシャーロットで開催されたAADR (American Association for Dental Research) の年次学術大会に参加、発表して参りましたので、ご報告致します。

AADRは国際歯科研究学会 (IADR) のアメリカ支部で、歯科における基礎研究および臨床研究に関するほぼすべての分野が一堂に会する学会です。今年はIADRの学術大会開催地が南アフリカで非常に遠かったことも影響し、アメリカのみならず多くの国々から参加者が集まっていました。

オーラルセッションでは、主にImplantology ResearchやMineralized Tissue分野の発表を聴講しました。各国で最先端の研究を行っている方々が発表しており、どの発表も非常に興味深く聞くことができました。発表を聞いて特に印象に残ったことは、学部学生が数多く発表していたことです。学生のうちに研究を行える環境が整っていることは学生にとって非常に有意義で価値のあることだと思いました。学生たちの発表を聞き、私自身も非常に刺激を受け、研究への意欲が湧きました。

この学会で私は、『Effect of Collagen Crosslinks on Osteoblast Proliferation, Differentiation and Mineralization』という演題名でポスター発表を行いました。本研究は骨質 (Bone Quality) が骨代謝に与える影響を解析することを目的とするもので、その解明によって、骨代謝メカニズムの一端が明らかとなるばかりではなく、骨移植や骨増成方法の選択基準を提唱できる可能性もあり、その臨床的意義は大きいと考えています。骨質は様々な因子によって規定され、中でも骨組織の有機質の90%以上を占めるI型コラーゲンの分子間架橋構造 (クロスリンク) は重要な因子のひとつです。そこで、本研究では骨質、とりわけコラーゲンのクロスリンクのあり方が骨代謝に及ぼす影響を解析しています。

ポスターセッション自体は1時間で、発表の際には日本の方々に留まらず、予想より多くの方々に質問を頂きました。これまで、国内学会で発表する機会を頂いたことはありましたが、国際学会での発表は初めてであり、英語での受け答えにとっても苦労しました。しかし、どの方も熱心に私の説明に耳を傾けて下さり、決して十分とは言え



学会場入口・学会場近くにて撮影

ませんが、ある程度はディスカッションを行うことができたと思います。スムーズに自分の研究を説明し、より活発なディスカッションを行うためにも、さらに英語力を身につけなければならないと実感しました。また、ディスカッションを通じて、自身の研究について別の視点から考えることができたとともに、有益なアドバイスを頂くこともでき、今回の学会発表は今後の研究を行う上で大きな意味をもつものとなりました。さらに、同様の研究を行う若手研究者と知り合うこともで

き、大変充実した刺激的な経験をする事ができました。

最後になりましたが、今回の発表に際して、魚島勝美教授、直接の研究指導を下さっている加来賢先生をはじめ、本研究に協力して下さいました生体歯科補綴学分野の先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。また、今回は平成25年度新潟大学国際会議研究発表支援事業学術奨励費による助成を受け、学会に参加することができました。関係各位にも心から感謝申し上げます。



92th IADR in Cape town 参加報告

歯周診断・再建学分野 高橋直紀

2014年6月25日から28日まで南アフリカ共和国のケープタウンで開催された第92回国際歯科研究学会（The International Association for Dental Research; IADR）にて発表の機会を得ましたので、ここに報告させていただきます。

アフリカ南端

日本から飛び立ち、1回の乗り継ぎを得て計20時間の長距離フライトの末、ケープタウン空港へと降り立ちました。ケープタウンに着いてまず感じたことは、予想以上に寒いということでした。アフリカと言えば、灼熱の太陽が照りつけ、サバンナを野生動物が駆け回るイメージですが、南半球に位置するケープタウンの季節は晩秋、到着早々に衣料店で厚手のパーカーを購入する羽目になりました。

空港から市内へ向かうタクシーの車窓からは、ブリキ屋根の掘立て小屋が密集するスラム街が散見され、ぼろぼろな服を着た住民がそこで生活している光景は少し衝撃的でした。その一方で、市内に着くとそこはヨーロッパの街を連想させる落ち着いた高貴な雰囲気か漂う街並みでした。学会場の近くにあるウォーターフロントにはショッピングセンターやレストラン、ホテルが立ち並び、映画館、水族館もありました。治安もよく整備さ



ケープタウンの美しい街並み

れているため、周辺には富裕層が住んでおり、特に白人の方が多く住んでいるそうです。アパルトヘイトが廃止されてもなお、未だに根付く格差社会が街並みの中に見え隠れしていました。



ウォーターフロントからの眺め

大陸初IADR

さて、今回で92回を迎えた歴史あるIADRですが、アフリカ大陸での開催は今回が初めてのことでした。オープニングセレモニーは、民族衣装を纏った現地の方のライブパフォーマンスから始まりました。会場を見渡すと空席が目立ち、地理的な問題のためか例年に比べると参加者が少ない印象を受けましたが、その後に行われたオープニングレセプションは満員御礼となり、IADRの人気の高さが窺い知れました。

私が今回発表させて頂いたセッションは、Microbiology / Immunology - Mechanisms of Immunityで、私共のグループは、歯肉上皮細胞に発現している新規イオンチャネルTransient Receptor Potential タンパクが細胞増殖に関与していることを報告させて頂きました。他の研究者の報告を拝聴する中で、歯周病に関する分野では、やはり歯周疾患と全身疾患に関する研究が積極的に進められており、改めて世界的に関心が高いトピックであることを再認識しました。しか

しながら、因果か相関か、その詳細なメカニズムに関しては未だコンセンサスは得られておらず、今後の更なる研究が期待されるところです。



オープニングセレモニーでのパフォーマンス



賑わうポスターセッション会場

Hatton Awards とJapan Night

大会のオープニングに先立ち、優れた若手研究者に贈られる「Hatton Awards」の選考審査が行われました。私共の医局からも大学院4年生の後輩が日本代表に選出され、当日のプレゼンテーションに臨みました。残念ながら入賞は逃しましたが、国内最終候補者に選出されたことは、同じラボのメンバーとして大変嬉しく誇らしく思うと同時に、なかなかできない貴重な経験を今後の研究生活に生かしてくれるものと期待しています。その後の懇親会では、急遽、彼の指導医代理として参加させて頂くこととなり、様々な分野の研究者たちと情報交換ができたのは私自身にとっても

よい経験になりました。また、日本人参加者のための懇親会である「Japan Night」では、日頃から研究面でお世話になっている他大学の先生方から、公私にわたるアドバイスを頂ける貴重な時間となりました。他大学、他分野の先生方との歓談を通して、様々な情報を交換・共有できるのも学会参加の醍醐味のひとつと言えるのではないでしょうか。



「Japan Night」会場にて



お世話になっている大阪大学の先生方と

終わりに

今回の学会でも大変多くの収穫があり、また異国の文化にも触れることができ、本当に有意義な時間を過ごすことができました。最後になりますが、このような機会を与えて下さった山崎和久教授をはじめ、研究の遂行に協力頂いている医局員の皆様に心より感謝の意を表します。